



Title	創世記外典とその言語
Author(s)	伴, 康哉
Citation	大阪外国語大学学報. 1961, 9, p. 51-79
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80179
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

創世記外典とその言語

伴 康 哉

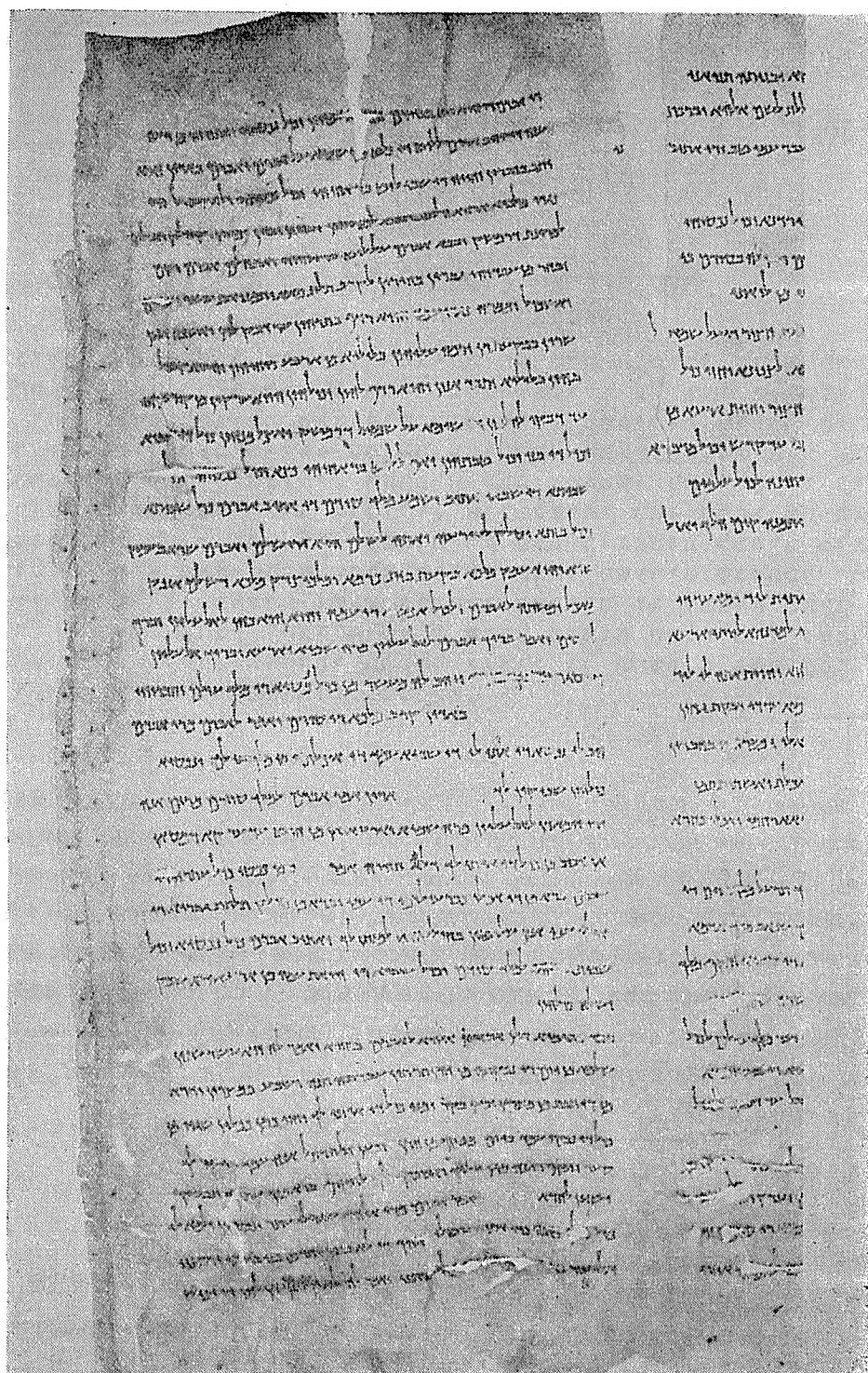
מגילה חיצונית לבראשית והלשון הארמית שלה מאת באן קוסאי

מגילה חיצונית לבראשית, המגילה הארמית היחידה שנתגלתה במערת קומראן הראשונה, פורסמה בשנת תשי"ז על ידי נ. אביגד וי. ידין בשם "מגילה חיצונית לבראשית—ממילות מדבר יהודה"; וספר זה מכיל פקסימילות חמישה דפים של המגילה, וביאור שלה עם תרגומים עברי ואנגלי. הארמית שבה השתמשו במגילה זו היא מהתקופה הישנה של הניב הגלילי. אני נסייתי כאן לנתח את הגייה ודקדוקה של לשון זו. בה נמצאות רק מעט דוגמאות לכתיב מלא; השמוש של ה"א כאם קריאה הוא מיוחד קצת. משערים שנשתמר המבטא העתיק של שי"ן שמאלית (ש), כי אין במגילה זו למצוא כתיב כמו "סגי" ו"סער" מלבד "שגי" ו"כו". שמוש צורות המוחלט והנסמך של השם עוד לא נעלם. הוספתי תרגום יפאני של חמשת הדפים עם תעתיק האותיות הרומיות של השכסס.

要 約 (上掲ヘブライ文の大意) クムラン第一洞窟から発見された唯一のアラム語の巻物は 1956年 N. Avigad と Y. Yadin によって 'MGJLH HJSWNJT LBR'SJT — MMGJLWT MDBR JHWDH' (A Genesis Apocryphon — A Scroll from the Wilderness of Judaea) の名の下に、英・ヘブライ両語の解説及び翻訳を附して、五つの欄のファクシミリが出版された。この巻物に用いられたアラム語はガリラヤ方言の古層である。筆者はこゝにその綴字法、音韻、文法について若干の分析を試みた。綴字では完全記法 (scriptio plena) の例は稀である、また補読文字 (mater lectionis) としての H の用法はやゝ特異的である。S' 音がまだ保存されていたことは綴字の上から推察される。名詞の絶対位相 (status absolutus) と構成位相 (status constructus) の使用はまだ衰えていない。なお、ロオマ字転写による原文を掲げ、それと対照して日本語訳を附け加えた。

I 創世記外典

クムラン第一洞窟から発見された七つの巻物のうち、イザヤ書写本 A、ハバクク書註解、教団規律及び創世記外典の四巻は1954年遂に250,000ドルを以て、Mar Athanasius Samuel 大司教からイスラエル側に買い取られた。これらの巻物にまつわる物語は時に応じて適度の尾鰭が加えられつゝ、欧米に於ては耳に聒膈が出来るほど語られてきた。創世記外典の巻物は保存状態が最



第22欄, 'A Genesis Apocryphon' より。(右端は第21欄の一部)

も悪く、大司教の手中にある間はそれを解くことが許されなかったが、はがれた断片からアラム語で書かれていることは知られていた。Millar Burrows は1948年3月1日聖マルコ修道院に於て初めて巻物を見せられたとき、断片の一枚に 'R' (地) なる語を認めて 'これはアラム語だ' と叫んだそうである。この巻物ははがれた部分にレメク(LMK)及びその妻バテノス(BT'NWS')の名が認められたので、かつて存在した偽経 'レメク書' (Sēfer Lemex) ではないかと考えられ、暫定的にそのように呼ばれていた。バテノスの名はバラキエルの娘としてヨベル書4:28に記されている。

巻物は James Biberkraut の極度の苦心とすぐれた技術とによって遂に開かれた。そして時を移さず Avigad と Yadin によって刊行されたのである。その内容が解説された結果、レメク、ノア、アブラムに関する記事を含んでいることがわかり、'創世記外典' (MGJLH HJS-WNJT LBR'SJT) と名づけられることになった。巻物の内容は創世記第5章から第15章までの記事に並行している。最終欄が物語の途中で終り、かつ文章も中断している所から考えれば、この巻物は恐らく数巻から成る完全な '創世記外典' の中の一巻、すなわち多分第二巻に相当するものであろう。従って缺けた諸巻も将来いずれかで発見されることが大いに期待される。

22欄から成る本文のうち、皮の腐敗や膠着及びインキのにじみによって大部分が損われているために、多少とも読むにたえるのはわずかに第2欄、及び第19欄から最終第22欄まで、合わせて五つだけである。このうち初めの二つの欄は赤外線写真によって辛うじて半分ばかりが読めるに過ぎない。しかし残りの三つの欄はかなり明瞭であって殆んどが読みとられる。その他の場所にわずかに名残を留めている文字をも拾い集めて、全巻の内容を以下に略述する。

第1欄は損傷が甚だしくて内容は全然わからないが、次の欄の記事から推察すれば、この欄の下部でノアの誕生の様子が記されていたに違いない。エチオピア語で残存しているエノク書その他の資料によれば、ノアが生まれおちたとき、その体は雪のように白く、ばらの花のように赤く、目を開けば家中が輝きに満ち、直ちに助産婦の手の中に立ち上って神を讃美したといわれている。第一洞窟の断片中の一つには WK'SR R'H LMK 'T.... 'T HDRJ HBJT KHDWDJ HŠMS (そしてレメクが…を見ると、……太陽の光線のように家の部屋々々を〔照らした?〕) と記されている。釈迦を連想させるこの神童ぶりに父レメクは度を失い、妻バテノスが天使と通じてこの子を生んだのではないかと疑う。第2欄はこゝから始まっている。夫の疑惑に対してバテノスが毅然として抗議する場面は他の文書に見られない。レメクは父メトセラのもとに走り、メトセラはその父エノクのもとに赴いて真相を伺う。これに対するエノクの答えは第5欄の23行目まで続いているようである。エノクはこゝでエノク書106:13 — 107:2 に較べて遙かに

長広舌を振っている。第5欄の上部に次のような語句が見られる。3行目 'NH HNWK (わたしエノクは), 4行目 (L' MN BNJ) ŠMJN LHN MN LMK B (RK) (天の子らによるのではなくて, あなたの子レメクによって), 9行目 WK'N LK' 'NH 'MR...WLK 'NH MHWH (今あなたにわたしは言う…そしてあなたにわたしは告げる), 10行目 'ZL 'MR LLMK BRK (行ってあなたの子レメクに言いなさい)。エノク書ではこゝでエノクが大洪水を予言している。それ故第3欄から第4欄にかけては同様のことがかなり詳細に語られていたと思われる。第6欄6行目の 'NH NWH GBR... (わたしノアは…人である) からノアの物語が始まっている。こゝは創世記6:9の「ノアはその時代の人々の中で正しく, かつ全き人であった」に相当するようである。こゝから第12欄までは, 第8, 9欄は全く不明であるとはいえ, 明らかにノアに関する物語であり, 或は第15欄までもそうであるかも知れない。第13, 14, 15欄も判読しがたい。第10欄12行目に TBWT' NHT HD MN TWRJ H'RRT (箱舟はアララテの山々の一つにとどまった) とあり, 同13行目に LKWL 'R' KWLH' KPRT (全地のためにわたしは贖いをした), また15行目に 'L MDBH' QTRT (祭壇の上でわたしは燻らした) とある。従って鳩を放つ場面はない。第11欄17行目の KWL DM L' T'KLWN (あなた方はいかなる血も食べてはならない) は創世記9:4に相当する。第12欄13行目以下には 葡萄酒の由来が記されている。すなわち 13行目 ŠRJT 'NH WBNJ KWLHWN LMPLH B'R' WNSBT KRM...BLWBR TWR' WLŠNJN 'RB' 'BD LJ HMR (わたし及びわたしの息子達すべては地を耕しはじめ, わたしはルバル山に……葡萄畑を栽培した, そして四年目にわたしは葡萄酒を作った)。文中の 'BD は 'BDT とするべきであろう。15行目 WŠRJT LMŠTJH BJWM HD LŠT' HMJŠJT' (そして五年目の第一日にわたしはそれを飲みはじめた)。16行目 QRJT LBNJ WLBNI BNJ WLNŠJ KWLN' WLBNTHWN W'TKNŠN' BHD' W'ZLNH... (わたしは 息子達と孫達とわたし達すべての妻達と彼等の娘達を呼んだ, そしてわたし達は一緒に集って……行った)。17行目…LMRH ŠMJ' L'L 'LJWN LQDJŠ' RB' DJ PLTN' MN 'BDN' (わたし達を滅亡から救い給うた天の主, いと高き神, 大聖者を…), すなわち神を讃美したのである。ヨベル書第7章によれば, このあとでノアは酔いつぶれて醜態を演じることになるのであるが, この巻物では以下知るよしもない。第16, 17欄はノアの子孫達とその占拠した地域についての詳細な記録であり, ヨベル書第8, 9章の記事に近いようである。第18欄はこれまた完膚なきまでに損われている。順序としてはバベルの塔の物語がこゝに来る, またアブラハム物語の発端がこの欄の途中にあるはずである。第19欄以下巻末に至るまでは対訳によって明らかのように, 創世記第12章5節前後から第15章4節までの部分に相当する。この頃はアブラハムもサラもまだ改名前であるから, 本書は当然 アブラム及びサライの名で一貫している。この部分のうちで第19欄に於けるアブラムの夢の記事と第20欄に

於けるサライの美の描写は本書独特の記事であって、とりわけ注目に値する所である。なつめやしの木と香柏は例えば詩篇92:13のようにしばしば義人の象徴として用いられているが、こゝでは彼の夢の中でサライとアブラムの代理をつとめている。そしてこの夢はアブラムがサライのおかげで危く助かることを暗示する。第19欄の下部もひどく損われているが、ヒルカノス等パロの三人の高官がアブラムの酒宴に招待されて、そこで初めてサライの美しい姿態を目のあたり見たい。第20欄の上部に於て彼等はパロに彼女の美しさを詳細に報告している。ユダヤ人の伝説では彼女のたぐいなき美貌は周知のことである。愛する女性の美を詠嘆する雅歌の絢爛たる比喩には及ぶべくもないが、武骨な重臣の言葉に託されたこゝの文章は創世記12:14に記されているような通り一遍の官僚的な辞句 *jafa hi mē'ōd* (彼女はたいそう美しい) への不満を解消して余りあるものといえよう。なお参考としてバビロニヤ・タルムウドから興味ある一節を抜粋しておく、
'MR RBJ BN'H NSTKLTJ BŠNJ 'QJBJW WDW MJM LŠNJ GLGLJ HMH HKL BPNJ
ŠRH KQWP BPNJ 'DM ŠRH BPNJ HWH KQWP BPNJ 'DM HWH BPNJ 'DM KQWP
BPNJ 'DM 'DM BPNJ ŠKJNH KQWP BPNJ 'DM (ラビ・バナアは言った、〔中略〕すべての者はサラの前では人間の前の猿のようである、サラはエバの前では人間の前の猿のようである、エバはアダムの前では人間の前の猿のようである、御座〔即ち神〕の前ではアダムは人間の前の猿のようである)、 *Bāvā Bāθrā* ‘最後の門’ 58a。

こゝから先の物語は説明を要しない。巻物自らをして語らしめれば十分であろう。すでに読者の気づかれた所であろうが、本書ではそれぞれの場面の主人公即ちレメク、ノア並びにアブラムはいずれも第一人称で語っている。たゞ一寸注意すべきことは、第21欄23行目以下のシデムの谷の戦いの記事を境として、第22欄の冒頭からアブラムが第三人称で叙述されていることである。これは戦いの巻き添えで捕虜となったロトの説明に‘わたしの甥’というべき所つい取り紛れて‘アブラムの甥’としたばかりに、以下筆の勢いに従って第三人称で続けざるを得なかったのであろう。上述のように本書では二人の婦人がそれぞれ重要な脇役を演じていることを見逃してはならない。彼女等の高貴な態度に較べてその夫達はあまりにもはしたなく優柔不断である。女人禁制を旨としたと思われるクムラン教団の蔵書中に、人妻の徳と美とを描くために貴重な場所が割かれているこのような巻物を、侃々諤々の諸文書の間に発見できたことは甚だ愉快である。そして有難いことには、この巻物の文章はアラム語の歴史に於ける大きな空白の一つの部分を充填してくれたのである。

この巻物に用いられているアラム語は一応ガリラヤ方言に属するものとしておこう。しかしそもそもガリラヤ方言或はガリラヤ語とは何であろうか。通常エルサレム・タルムウドのアラム語

によって代表される方言をそのように呼んでいる。エルサレム・タルムウドはガリラヤに於て編纂されたのであるから、これに用いられたアラム語に関するかぎり、ガリラヤ語なる名称は悪くない。勿論ミドラシュ類の言語も全く同一の方言である。しかしヨナタン・タルグムの用語になるとエルサレム・タルムウドのアラム語に極めて近いとはいえ、細部に於ては多少の隔たりが見られる。イエスとその弟子達の言語はガリラヤ語であるといわれているが、その実態は把握されていない。新約聖書の中にギリシャ文字で写された数個の語句だけでは如何ともなし難い。彼等がガリラヤ出身であるという所から安易に或はついでにガリラヤ語として片付けたと思われても仕方がなかろう。要するにガリラヤ語なる術語は定義づけられなければならない。かつて聖書アラム語を主軸とするユダヤ人のアラム語に対してカルデア語 (*Lingua Chaldaica*) という便利にして曖昧な言葉があった。これは主として地理的な紛らわしきの故に言語学者達に非難され排斥されたのであるが、ガリラヤ語という名称にも便利さと曖昧さが付随する。しかしガリラヤ語の定義づけには必然的にアラム語の再分類という問題が絡まる。これは大問題であって、こゝはその議論に費されるべき場所ではない。従ってガリラヤ語の意味は依然として常識的な解釈に甘んじなければならない。暫定的な試みとしてガリラヤ語を次のように規定してみよう。すなわち聖書アラム語の時期が去ったと見るべき紀元前一世紀の初めから五世紀の前半に於けるテベリヤ学派の終焉に至る五百有余年間、ガリラヤ及びユダヤのユダヤ人によって用いられたアラム語の方言をガリラヤ語と呼ぶことにする。創世記外典のアラム語はこの意味でのガリラヤ語であり、その古い層を代表するものである。

Ⅱ そ の 言 語 の 概 説

アルファベットは順序に従って次のように転写する。', B, G, D, H, W, Z, H̄, T̄, J, K, L, M, N, S, ', P, Š, Q, R, Š̄ (およびṦ), T. 音韻を示す場合は小文字とする。この項に於て、語の前に附せられた星標(*)は推定形を示す。

綴 字 法

§ 1. 語末の ā は少数の語に於ては H で示されている。例, 'NH (わたし), 'NTH (あなた), MNHH (素祭, xxi, 2), 'TH (来る), QNH (得る) 等。TNH (こゝに, xxii, 28) も同様であろう。しかし M' (百, xxii, 6) は一般的な原則に反している。(女, 妻) の意味の名詞も絶対位相は 'NTH であるが、一箇所 'NT' (xx, 9) と綴られている。その他人称接尾語或は人称語尾のうちで、H で綴られた例が見られる。MNNH (わたし達から, xx, 28), 'SLTH (あなたは救った, xxii, 19), BLHWDWHH (彼女ひとりで, xix, 15), MNKH (あなたから, xx, 26), 等がこれである。

§ 2. 語末の e または ē は H で示されている。例, MŠTH (酒宴), MWMH (誓い), 'SGH (わたしは増す, xxi, 13), JTMNH (数えられる, 同所) 等。これらはいずれも弱子音に終る名詞または動詞の一定の変化形に属し, 通常は J を以て綴られているものである。但し J' (=jā'e 美しい, xx, 4, 8) は上述の M' と同様特異的である。

§ 3. 完全記法 (scriptio plena) は i, ū を示す場合を別として殆ど用いられていない。この点他の死海写本と甚だしく異なる。QWDMJHWN (qo- または qō-, 彼等の前に, xix, 25), HWW' (あった, xxii, 8, その他) 等が僅かな例である。但し KWL (すべて) の綴りは絶対に多く, KL (xx, 6, その他) は二三に留まる。語中の ā を ' で示している例が少し見られる。KL'N (花嫁〔複数〕, xx, 6), 'LW'N (燔祭〔複数〕, xxi, 2), MŠRJ'TJ (わたしの宿営〔複数〕, xxi, 1), TNJ'NJ (再び, 同所), HW'T (彼女はあった, xx, 17, 27), LW'TJ (わたしのもとに, xxi, 5, 7) 等。短母音 a を示していると思われるものがある。即ち TMNJ'T 'SR (十八, xxii, 6)。

音 韻

§ 4. 'SGJ (多い), 'SR (毛髪), ŠM'L (左), 'SR (十), ŠN'JK (あなたの敵, xxii, 17), ŠMWQ' (赤い, =タルグム SJMWQ') 等は綴りの上で明らかなように š 音を保存しているものと思われる。最後のものは JM' ŠMWQ' (赤い海, xxi, 18, その他) と熟して用いられている, これは勿論エリトラ海 (Erythraeum mare) に相当する。

§ 5. R'JŠH (彼女の頭, xx, 3), B'JŠ' (悪い, xx, 17) の綴りはこれらの語に於て第二根素 (secunda radicalis) の ' がまだ保たれていることを示している。しかし語末の ' はすべて失われた。例, 'SGJ (多い) = 聖書アラム語 'SGJ'。

§ 6. 'ŠTJT (わたしは飲んだ, xxi, 20), 'ŠTJW (彼等は飲んだ, xxi, 22) は語頭の二子音連続を避けるための母音前置の例である。既に聖書アラム語にも 'ŠTJW ('ištiw) なる形は現れている (ダニエル書 5:3, 4)。

§ 7. 語末子音の脱落の例としては BJ (=baj, 家, xxi, 6, <BJT) があるのみである。この形は古く帝国アラム語の時代から行われている。例, JHBT LKJ BJ H[D] (わたしは貴女に家を一軒与えた) Kraeling: The Brooklyn Museum Aramaic Papyri, pap. 10, l. 2. バビロニア・タルムウド・アラム語では bē (家〔構成位相〕)をはじめ 'āzā (行く, <'āzal), 'ēqū (わたしは立つ, <'ēqūm) 等その例は珍らしくない。

§ 8. 'SQT (わたしは上げた, xxi, 20, <*'SLQT), 'HK (わたしは行く, xxii, 33, <'HLK) に於て l は直前の子音に同化されている。前者 (語根√SLQ) はアラム諸方言を通じて

一般的である。しかし xxi, 8 の SLQ (上れ) は命令法であるから SQ (=saq) となる筈であるのに、L は保たれている。ブルツクリン博物館のパピロスの中には誤った回帰 (§10 参照) の形が出ている。LMNSQ 'L' WLMNHT (上にのぼり、また下りるために、The Brooklyn Museum Aramaic Papyri, pap. 6, l. 13), [LM]NSQ [WLM]NHT BDRG' (階段を上り下りすること、同、l. 10) の MNSQ がそれである。一方、同書 pap. 9, l. 15 には DRG' LMSLQ WMNHT (上り下りするための階段) とあり、L を保存する形が用いられている。それゆえ両者の間に介在すべき同化形 MSQ は既に それ以前から 行なわれていたことがわかる。すなわち MSLQ (mislaq) > MSQ (missaq) > MNSQ (minsaq) と推移したのである。動詞 HLK の変化に於ける L の同化の例も古くから現れている。例、帝国アラム語 WTHK LBJT 'BWH (そして彼女は自分の父の家に行く、上掲書, pap. 7, l. 28), 聖書アラム語 KL MTNDB BMLKWTJ MN 'M' JSR'L WKHNWHJ WLWJ' LMHK LJRWSLM 'MK JHK (わが国にいるイスラエルの民とその祭司及びレビ人のうちで、あなたとともにエルサレムへ行こうと欲する者は誰でも行くことができる、エズラ記 7:13)。これは一時的な現象に終わったので、後代その語根を√HWK と誤り、マソラでは jehāḫ, limhāḫ と読ませているが、正しくは *jihhak, *ləmihhak に近かったであろう。

§ 9. n が逆行的同化を蒙る傾向は北セム語に共通である。特に n で始まる動詞の一定の変化形に於ては殆ど規則的な現象となり、そのために動詞形態論では必ず第一ヌウン動詞 (verba primae nun) という項目が設けられている程である。本書のアラム語でも 'SB (わたしは取る, xxii, 22, <*'NSB), JPWQ (出るだろう, xxii, 34), MPQK (あなたの出立, xxii, 30, <*MNPQK), LMDJTWN (彼等の国に, xxii, 4) のようにその例はあるが、一方 'NPQ (出した, xxii, 14), 'NTN (わたしは与える, xxi, 12), LMNTN (与えること, xxii, 24), 'NTH (あなた、或は、女), 'NPJH' (彼女の顔, xx, 2) のように同化されない例も発見される。

§ 10. 上とは逆に誤った回帰として知られている現象がある。それは動詞 JD' の或る変化形に於て j が d に同化するのであるが、これを n の同化と混同して誤った語形を誘導するのである。本書には JND' (知るだろう, ii, 20), LMND' (知るために, ii, 22), WJND'WK (そして彼等はあなたを知るだろう, xx, 15) 等の用例がある。最後の例は写本を見れば、はじめ WJD'WK と書き、あとから D の上に N を加えて訂正していることがわかり、興味を覚える。ところがその二行下には JD'H' (彼は彼女を知るだろう, xx, 17) という N のない形が出ている。この現象は古くからあり、聖書アラム語にも 'inda' (わたしは知るだろう、ダニエル書 2:9), tinda' (あなたは知るだろう、同 2:30, その他), manda' (知識、同 5:12) 等が用いられている。後期のアラム語に却ってこれが少ないために本来の語根は ND' ではなかったかとい

う疑いも生じるが、アッカド語 'idū (知る, 語根 *JD' < *JD'), ウガリト語 JD' (知る) があるからこの仮設は崩れる。

§ 11. MKDŠ (災厄, 疫病, xx, 16, =MKTS) は偶発的な異化の唯一の例である。同化にしても異化にしても普通には発音の容易化流暢化の結果であるが, この場合はその逆を行っている。従って永続きしない。但しマンデヤ語には KDS (打つ) がある。バビロニア・アラム語の 'JSQWBT' (闕, =JSQWPT', Rossell, A Handbook of Aramaic Magical Texts, 3. 3) はこれに近い例であろう。

§ 12. 原始セム語の音韻 $\dot{\delta}$ はアラム諸語では ' となって現れている。セム諸語に於けるこの音の対応はアラビア語 $\dot{d}$, 南アラビア語 $\dot{d}$ (または $\dot{\delta}$?), アッカド語 $\dot{s}$, カナン語 $\dot{s}$ である。ありふれた実例を以て示せば, 原始セム語類推形 *'ar $\dot{\delta}$ - (地) に対して, アラビア語 'ar $\dot{d}$ -, 南アラビア語 'RD, アッカド語 'er $\dot{s}$ etu, ウガリト語 ARS $\dot{s}$, ヘブライ語 'ereš であり, アラム語では 'R' となっている。この ' は古いアラム語では q の有声音であって, 'RQ のように文字 Q を以て綴られていた。聖書アラム語ではエレミヤ書 10:11 が古形の用いられている 唯一の箇所であるが, こゝには新しい形も相並んで出ている, KDNH T'MRWN LHWM 'LHJ' DJ ŠMJ' W'RQ' L' 'BDW J'BDW M'R' ' WMN THWT ŠMJ' 'LH。さて $\dot{\delta}$ > Q > ' の推移の結果として一語中に ' が二個 現れた場合, 時の経過とともに 第一の ' が異化して ' になる傾向がある。'ā' (木, 帝国アラム語 'Q, 南アラビア語 'D, ヘブライ語 'ēš) は早くから異化した例であるが, 一方 'il'ā (肋骨, アラビア語 $\dot{d}$ il-, ヘブライ語 šēlā) はタルグムにも用いられており, シリヤ語に至って 'el'ā となった。本書に用いられている L'WB' (急いで, xx, 9), L'WR'HWN (彼等に向って, xxi, 31), L'WR'H (彼に向って, xxii, 13) はいずれも 過渡期の形である。L'WB' については Journal of Semitic Studies, vol. I, no. 3 (1956) 所載の P. Grelot の論文 'On the Root 'BQ/'BS in Ancient Aramaic and in Ugaritic' 及び vol. II, no. 2 (1957) の 'Complementary Note on the Semitic Root 'BQ/'BS' を参照して頂きたい。L'WR' に当るものとしてタルグムに L'WR' がある。動詞には 'āra', 'āra' (会う) 両形がある。アラビア語の 'araḍa (起る), 'āraḍa (対立する) と同じ語源であろう。ヘブライ語の 'ēra' (起る) はアラム語からの借用語である。

代 名 詞

§ 13. 本書に用いられている人称代名詞の独立形は単数一人称 'NH, 二人称男性 'NTH, 三人称男性 HW', 三人称女性 HJ', 複数一人称 'NHN', 三人称男性 'NWN である。'NWN が動詞の目的語としても用いられることは他の諸方言と共通する。これについては拙論 'セム語

人称接尾語に関する一考察' (大阪外国語大学学報第6号所載) §8を参照して頂きたい。

§14. 人称接尾語は次の通りである。単数一人称 -J, 動詞に接尾する場合は -NJ, 二人称男性 -K, -K' (または -KH), 二人称女性 -KJ, 三人称男性 -H, -HJ, 三人称女性 -H, -H' (または -HH), 複数一人称 -N' (または -NH), 三人称男性 -HWN, -WN, 三人称女性 -HN。-KH, -HH, -NH の綴りについては §1 参照。-HJ の用例には男性複数名詞とともに NKSWHJ (彼の家畜, 即ち彼の財産) 等, 前置詞 'L とともに 'LWHJ (彼の上に), 及び 'HWHJ (彼の兄弟), 'BWHJ (彼の父) がある。'HWJ (xxi, 34) は 'HWHJ の簡略形である。-WN は一回だけ現れる, LMDJTWN (彼等の国に, xxii, 4)。xx, 25 の 'LW (彼のもとに) は文字不明瞭であるが, この判読にして正しいとすれば, ヘブライズムと見るべきであろう。

§15. 指示代名詞は単数男性 DN, DN', 女性 D', 複数 'LN の一組が用いられているだけである。名詞を限定するときは常にその後に置かれており, かつ名詞は限定位相 (status determinatus) が用いられている。名詞が形容詞を従える場合の例として, RWH' D' B'JŠT' (この悪い風, xx, 28) と JM' RB' DN (この大海, xxi, 16) がある。この場合の指示代名詞の位置は二通りあるが, 特に後者の例では JM' RB' が熟語であるから 間に DN が割り込むことはなからう。

関 係 詞 DJ

§16. 関係詞 DJ の簡略形 D- は二三回現れているに過ぎないが, 聖書アラム語ではすべて DJ であるから, これらがいわば D- の走りかも知れない。例, MLK' DŠLM (サレムの王, xxii, 14)。DJ 或は D- が接統詞として, 関係代名詞として, また所属関係の前置詞として頻繁に用いられているのは他のアラム語に於けると同様である。動詞 'MR (言う) に従う直説叙法を導く D- の用例が一つだけある, THWH 'MR D-MN NKSJ [以下略] (xxii, 22)。xxii, 33 の 'HK DJ L' BNJN (わたしは子なくして行くだろう) に於ける DJ は特異な用法であって, 付随状況を示している。なお §18, §19 参照。

名 詞

§17. 名詞の変化語尾は全く標準的である。すなわち 男性単数の絶対, 構成兩位相には語尾なく, 限定位相 -' (ā), 男性複数の絶対位相 -JN (in), 構成位相 -J (ē), 限定位相 -J' (ajjā) であり, 女性では同順に -' (ā), -T (at), -T' (tā), -N (ān), -T (āt), -T' (ātā) である。それぞれの例, 男性, HLM (夢, xix, 17), 'PR (塵, xxi, 13), TWR' (山, xix, 8), 'JRJN (警護の天使達, ii, 1), MLKJ (王達, xx, 13), 'ŠPJ' (魔法使達, xx, 19), 女性, 'RQ' (革紐,

xxii, 21), MDJNT (国, xx, 27), TMRT' (なつめやしの木, xix, 15), BTWLN (処女達, xx, 6), 'SB'T (指, xx, 5), TBT' (よき物, xxi, 3)。弱子音に終る男性名詞の例, 単数絶対位相 MŠTH (酒宴, 飲物, xxii, 15), 構成位相 B-LJLH (=lēlē, 夜に, xix, 14), 限定位相 LJLJ' (=lēljā, 夜)。xxii, 1 の R'H (牧人) は複数の構成位相でなければならない。因みにこの語の複数には種々の形がある。弱子音に終る形容詞としては絶対位相の男性単数 J'' (=jā'e, 美しい, §2 参照), 同複数 J'JN (=jā'ajin?) がある。ŠGJ (多い) は古くは'に終っていた, 男性複数形 ŠGJ'JN (xx, 33, 34) はその'を取り戻している。しかし xx, 7 の ŠGJ' は女性絶対位相であるから, この-'は根素ではなくて語尾である, (=šaggiā?). 分詞については便宜上動詞の項で述べる。

§ 18. アラム語は本来三つの位相を有しながら, 絶対, 構成兩位相を漸次廃棄して限定位相一本に切り換える方向に進んできた。本書ではまだそれぞれの位相は適材適所に固有の機能を十分発揮している。しかし構成位相はやはり幾分散遠されている。それはこの位相の内在的欠陥にもよるのであろうが, 一旦 DJ による所属関係の表現法を採用してみると, 種々便利な点が発見されて, この方法が棄て難くなったに違いない。KWL NKSJ' DJ MLK' JLM WHBRWHJ (エラムの王とその仲間達のすべての財産, xxii, 17), KWL NKSJ' DJ SWDM WDJ..... (ソドムと〔ゴモラム?〕とのすべての財産, xxi, 33), MDBR' | RB' DJ MDNH HWRN (ハウランの東の大砂漠, xxi, 11—12), JM' RB' DN DJ MLH' (この塩の大海, xxi, 16), LBWŠ ŠGJ DJ BWS W'RGW'N (細布と紫の多くの衣服, xx, 31) 等に於ては確かに構成位相によってその所属関係を簡明に表現することは困難である。これらのような場合アラビア語では如何に表現されるか比較すれば面白いのであるが, 今は省略し, 各位の御研究に俟つ。しかし MLK' DJ SWDM (ソドムの王, xxii, 18), 'RH' DJ MDBR' (荒野の道, xxi, 28), BHZJ' DJ LJLJ' (夜の幻に, xxi, 8) 等では DJ を用いるべき必然性は考えられない。それにも拘らずこういう例は古くから少なからず見られる, 帝国アラム語 'WSR' ZJ MLK' (王の蔵, The Brooklyn Museum Aramaic Papyri, pap. 3), BGH ZJ PMWN (パモン〔人名〕の莊園, Driver: Aramaic Documents of the fifth Century B. C., letter viii), 聖書アラム語 BHZW' DJ LJLJ' (夜の幻に, ダニエル書 2:19), DT' DJ 'LHK WDT' DJ MLK' (あなたの神の律法および王の律法, エズラ記 7:26) 等。本書ではまだ DJ の濫用という所までは行っていない。構成位相によるものの方が普通である, 例 'NTT' BRM (アブラムの妻, xx, 25), 'SJ MŠRJN (エジプトの医者達, xx, 19), 'SB'T JDJH' (彼女の手の指〔複数〕, xx, 5)。但し各要素の不定性を一層明確にするために DJ が多少は存在理由を持っている場合もある, 'RQ' D-MS'N (靴の革紐, xxii, 21, 'RQ' は女性名詞<限定位相 'RQT')。ダニエル書の ŠLM DJ

DHB (一つの金の像, an image of gold, 3:1) と ŠLM DHB' (その金の像, the golden image, 3:5, その他) を比較して頂きたい。なお xxii, 4 の 'RH' HLT' RBT' (大溪谷の道) は明らかに誤記である。'RH' DJ MDBR' (荒野の道, xxi, 28) 等の表現が用いられている所から考えれば、恐らく DJ を書き落したものであろう。

§ 19. 二重属格、即ち人称接尾語と所属の前置詞としての DJ とを併用する冗語法 (pleonasmus) は時の経過とともに病こうこうに入り、遂にはヘブライ語に於てもその模倣に憂身をやつすほどに至った。しかし本書では二つの例を見るのみである、BR 'HWJ | DJ 'BRM (アブラムの〔彼の〕甥, xxi, 34—xxii, 1), 'TRH DJ | 'BRM (アブラムの〔彼の〕富, xxii, 22—23)。聖書アラム語にもその例はある、'NHN' HMW 'BDWHJ DJ 'LH ŠMJ' W'R' (わたし達は天地の神の〔彼の〕しもべである, エズラ記 5:11), 'LHHWN DJ ŠDRK MJŠK W'BD NGW (シャデラク, メシャク, アベデネゴの〔彼等の〕神, ダニエル書, 3:28, 29)。

動 詞

§ 20. 動詞型の種類は他のアラム語と同様であるが、再帰使役型 ('ittaf'al) は疑わしい。従って次の五種類となる。語根型 (pə'al), 強調型 (pa'ēl), 使役型 ('af'ēl), 再帰型 ('iθpə'ēl) 及び再帰強調型 ('iθpa'al)。再帰使役型にして若しありとすれば、'THZJ (現れる, xxi, 8) がそれであろう。使役型の古形 haf'ēl に属するものが一箇所に用いられているらしいが、文字不明瞭のため確認し難い、即ち [HW]D' (彼は告げた, xx, 29)。四子音根の動詞は見られない。再帰諸型は綴字の上では互に区別することができない、他のアラム語に現れる動詞型との比較などからそれぞれの型を推定するより仕方がない。単なる再帰型と思われるもの、'TB(N)J'T (それは建てられた, xix, 9), TTG'R (それは叱責される, xx, 28), ['THZJ?], 'THLM (元気を出す, xxii, 5), MTKTŠ (打たれる〔分詞〕, xx, 25), MTNGD (鞭うたれる〔分詞〕, xx, 25), 'T'JRT (わたしは目をさました, xix, 17)。再帰強調型と思われるもの、'ZDMNW (彼等は同盟した, xxi, 25), 'THNNT (わたしは願った, xx, 12), 'TPLJ (取り除かれる, xx, 29), 'ŠTNJ (変る, ii, 11), 'ŠT'J (語れ, xix, 18)。いずれの型に属するか区別し難いもの、'TBHLT (わたしは狼狽した, ii, 3), 'TKNŠN' (わたし達は集った, xii, 16), JTMNH (それは数えられる, xxi, 13), 'TBR (敗れる, 語根√TBR, xxi, 32), MTGR (利益を受ける〔分詞〕, 語根√TGR, xx, 10)。

§ 21. 完了の人称語尾は次の通りである、単数三人称女性 -T, 二人称男性 -TH, 一人称 -T, 複数三人称男性 -W, 同女性 -, 一人称 -N'。この表を見れば聖書アラム語に近いことがわかる。尤も複数三人称男性の語尾に、エルサレム・タルムウドに於けるように、N 附加

(nunatio)を持つものがある。'TWN (彼等は来た, xix, 26), B'WN (彼等は欲した, xix, 15) がそれである。偶然かも知れないが, いずれも第三弱動詞であり, かつ三人称単数に於て-āに終るものである。但し 'TWN には 'TW (xix, 15) の形も出ている。複数三人称女性の動詞は一箇だけ現れる, ŠLM' (=šəlimā?, [十年が] 完了した, xxii, 28)。TBT (あなたは帰った, xxii, 29) では単数二人称男性の語尾が -T になっている。また複数一人称の語尾を -NH と綴るものがある, 'ZLNH (わたし達は行った, xii, 16)。

§ 22. 未完了の人称的接頭素と語尾は次の通りである。単数三人称男性 J-, 同女性 T-, 二人称男性 T-, 同女性 T—JN, 一人称 ', 複数三人称男性 J—WN, 同女性 J—N, 二人称男性 T—WN。これらはガリラヤ語及びそれ以前のアラム語に共通するものである。三人称の J- の前に L- がついたもの, またはこの L- が J- を吸収したものは, 聖書アラム語にも既に現れているが, 本書にはその用例を見ない。複数男性に於て語尾の -N を除いたものが二箇所に用いられている, 'L TQWSW (切ってはならない, xix, 16), JND'WK (彼等をしてあなたを知らしめよ, xx, 15)。これは要求法 (modus jussivus) 即ちいわゆる語尾切断法 (modus apocopatus) の名残であって, 後代のアラム語には見られない。聖書アラム語では次の用例が知られている, 'L JBHLWK R'JWNK WZJWJK 'L JŠTNW (あなたの思いがあなたを恐れさせないように, またあなたの顔色が変わらないように, ダニエル書, 5:10)。

§ 23. 命令法は単数男性形の他は用いられていない。

§ 24. 語根型動詞の不定詞は一般のアラム語と等しく MP'L の形をとっている。但し ŠBQ (棄てる, 赦す) の不定詞は MSBQ (xix, 19) の他に MSBWQ (xix, 15) の形も出ている。その他の動詞型に属する不定詞は用例が少なく, かつ語根が弱子音に終るものに限られている。強調型 'TMJ' (汚すこと, xx, 15), ŠLJ' (祈ること, xx, 22), 人称接尾語のついたもの 'SJWTH (= 'assājūtēh?, 彼を医やすこと, xx, 19, 20), 再帰強調型 'ŠT'J' (= 'išta'ājā?, 語ること, xix, 18)。これだけの例では不十分であるが, M- のない点と人称接尾語がつくとき女性語尾-WT をとる点に於てはタルグムの言語に似ているようである。

§ 25. 分詞は勿論 広義の名詞の部類に入るものであるが, 一般に実名詞や修飾語としてよりも時制の補助として用いられる場合の方が多い。従って実例に現れる位相は殆んど絶対位相である。性, 数に応じて名詞と同様の語尾をとること言うまでもない。女性複数の例は一つだけである, NHTN (下りる, xx, 12)。各動詞型に於ける分詞の形は例示すれば次のようになる, 強調型 MMLL' (語る [女性], ii, 18), 使役型 MRJM (上げる, xxii, 20)。再帰型または再帰強調型の分詞は § 20 参照。語根型の動詞にのみ受動分詞の用例がある, QTJL (殺された, xxii, 3), ŠBJQJN (残された [男性複数], xxii, 20), ŠJM' (置かれた [女性単数], xxii, 10) 等。能

動的な意味を持つ受動分詞の例はない。

§ 26. 受動態らしいものが二三用いられている。ŠBJQT (わたしは残された, xx, 10), L^rQTJLT (わたしは殺されなかった, 同所), DBJRT (彼女は連れ行かれた, xx, 11), DBRT (=dubbarat?, 彼女は連れ行かれた, xx, 14), がそれである。最後の例は強調型の受動態と思われる。以上の他に受動分詞との区別が明白でないものがある。ŠBJQ (残された, xix, 16), ŠBJ (挿えられた, xxii, 3)。§ 25に挙げた QTJL (同所) もその一つである。

§ 27. 第三弱動詞 (verba tertiæ infirmæ) の未完了, 不定詞, 分詞の語尾 -ē または -e は通常 J を以て, 時には ' で表わされているが, 本書では H が用いられている (§ 2 参照)。例, 'TH (= 'etē?, わたしは来る, xx, 21), 'SLH (= 'ašallē?, わたしは祈る, 同所), MHWH (= māḥawwē?, 示す [分詞], v, 5)。この点帝国アラム語の綴字法に近い。'TH と綴られているとき本書では三種の区別があることになる。すなわち 'ātā (? , xxi, 23, その他) と読めば完了第三人称単数男性となるからである。ii, 2 の MŠTNJ は若し分詞であるならば上の原則によって MŠTNH と綴られる筈である。文脈からは ii, 11, 12 に於けると同様に完了形 'ŠTNJ がむしろ適切であろう。それゆえこの MŠTNJ は 'ŠTNJ の誤記と判断される。同じ第一洞窟から発見されたダニエル書断片に於て, マソラでは NHW' (わたし達は告げる, 2:4), 'NH ('ānē 答える [分詞], 2:5) とある所を, NHWH, 'N と綴っている。従って後者は完了形 ('ānā) として読む方が正しいと考えられる。動詞 *ŠB' (捕える) の完了三人称複数男性形に三通りの綴りが見られる, すなわち ŠBW (xxi, 34), ŠB'W (xxii, 12), 及び ŠBW' (xxii, 10)。このうち最初の形は当然予期される所である。第二のものは単数形に *ŠBJ を想定すればよいが, 受動態と解釈し得る余地もある。しかし最後の綴りは不審である。アラビヤ語では接尾語或は他の語尾がつかない限り三人称複数男性形の語尾は常に -W' と綴られるが, それとこれと同日に論じることができない。アラビヤ語の場合については例えば Wright: A Grammar of the Arabic Language (vol. I, § 7, REM, a) 等を参照して頂きたい。そこで ŠBW' もまた恐らく誤記であろうと思われるが, これは断定しないで暫く様子を見たい。

§ 28. JHB (与える) と *NTN (同) の使い分けは聖書アラム語と同じく本書でも行なわれている。すなわち JHB の変化を用いる場合, 完了 JHB (xx, 31, その他), 命令法 HB (xxii, 19), 分詞 JHB (xxi, 10), JHBJN (xix, 24, その他)。*NTN の変化を用いる場合, 未完了 'NTN (わたしは与える, xxi, 12), 不定詞 MNTN (xxii, 24)。

§ 29. 動詞が人称接尾語をとる場合, -N- が挿入されるのは聖書アラム語と同じく未完了に限られている, 例, 'NTN-N-H (わたしはそれ [女性] を与える, xxi, 14), JRT-N-NJ (= jērētinnanī?, 彼はわたしのあとを継ぐ, xxii, 33), JHZ-N-H (彼は彼女を見る, xix, 23)。

第三弱動詞の完了形が人称接尾語をとったものは次の通りである、**HZH'** (=ḥāzāhā?, 彼は彼女を見た, xx, 9), **HWJH** (=ḥawwəjēh?, 彼は彼に告げた, xxii, 3)。xx, 25 の **JTJBW NH** は **JTJBWNH** (彼等をして彼女を返さしめよ) と続けるべきである。

§ 30. 分詞とともに構成される複合時制に於て、動詞 **HW'** の変化形は一般に主語と一致しているが、完了の三人称複数男性の場合のみはすべて単数形が用いられている。例、**HWW' | JHBJN** (後等は与えていた, xxi, 26—27, その他), **KWLHWN HWW' 'RQJN** (彼等は皆逃げつづけた, xxii, 9)。こういう用例ではどの場合も **HWW'** と書かれているが、これを複数の変則的な綴り (§ 27 参照) と見做すことはできない。単数 **HWW' QTL** (彼は殺しつづけた, xxii, 8) の例もあるからである。この綴り方 (§ 3 参照) は代名詞との区別を明らかにするのが主な目的であろう。バビロニヤ・タルムウド・アラム語ではこのような場合の **HWH** (=HW') は屢々非人称的であるが、三人称複数に関してはむしろ相当する形がよく用いられている。例、**MRJŠ HWH 'MJN' LJK' QWŠT' B'LM'** (最初からわたしは言っていた、この世に真実はないと、サンヘドリン 97a), **D'J HWW JHBJ LJH KL HLLJ 'LM' L' HWH MŠNJ BDBWRJH** (たとえ彼に世の隠れた宝をすべて与えたとしても、彼はその言葉を変えないであろう、と、同所), **JWM' HD HWH JTB' DBJTHW WQ' HJJ' RJŠJH 'TJ' ŠBBT' TRP' 'DŠ'** (ある日彼の妻が坐って彼の頭を梳いていたとき、近所の女が来て扉を叩いた、同所)。第一の例の **'MJN'** ('āmē-nā) は **'MR** の分詞 (§ 7 参照) の後に一人称単数の代名詞がついたものである。第二の例では **HWW** は三人称複数、**JHBJ** は男性複数の分詞である。この複合時制の接続法的な用例には次の二つがある、**KDJ HWJT MTGR** (わたしが有利になるように, xx, 10), **DLM' THWH 'MR** (あなたが言わないように, xxii, 22)。

§ 31. 限定された目的語を示す前置詞 **JT** は用いられていない。しかしこれに代る **L-** の用例が散見される。例、**LKJ LMŠBQ** (あなたを残すこと, xix, 19), **HW' RWH' KTS'** **LKWLHWN** (風は彼等すべてを打ちつづけた, xx, 20), **LLWT BR 'HWHJ PS'** (彼は甥のロトを救った, xxii, 9)。後代のアラム語に多い冗語法的な使用も見られる、**'SPRK LK** (わたしはあなたを保護する, xxii, 31), **JTJBWNH LŠRJ** (彼等をしてサライを返さしめよ, § 29 参照)。

要点を簡明に述べるつもりであったが、饒舌に過ぎた所もある。しかも見落したこと、書き漏らしたことも多々あると思う。言い残したことの幾分かはⅢの註に於て補われるであろう。

Ⅲ 対 訳 創 世 記 外 典

(第II, XIX, XX, XXI, XXII 欄)

テキストの転写は ‘A Genesis Apocryphon’ の判読に従うが、必ずしも忠実でない箇所がある。算用数字はテキストの行を示す。この項に於て、原文または訳文中の星標(*)は註釈があるという記号である。

II ¹ H' B'DJN HŠBT BLBJ DJ MN
'JRJN HRJ'T' WMN QDJŠJN H〔 』
WLNPLJ〔JN〕 ² WLBj 'LJ MŠTNJ 'L
'WLJM' DN'

³ B'DJN 'NH LMK 'TBHLT W'LT 'L
BT'NWS' 'NT〔TJ W'MRT ⁴ 〕 W'D
B'LJ' BMRH RBWT' BMLK KWL
'〔LMJM ⁵ 〕 BNJ ŠMJN 'D KWL'
BQWŠT' THWJNNJ HN〔 ⁶ BQWŠT'〕
THWJNNJ WL' BKDBJN HD' B〔

〕 ⁷ BMLK KWL 'LMJM 'D BQWŠT'
'MJ TMLLJN WL' BKDBJN〔 〕
⁸ 'DJN BT'NWS' 'NTTJ BHLŠ TQJP 'MJ
MLLT WB〔 〕 ⁹ W'MRT J' 'HJ
WJ' MRJ DKR *LK 'L 'DJNTJ '〔 ¹⁰

〕M 'NT' WNSMTJ LGW NDNH'
W'NH BQWŠT' KWL〔' ¹¹ 〕 WL〔 』
WŠGJ LBJ 'LJ 'DJN 'ŠTNJ

¹² WKDJ HZT BT'NWS' 'NTTJ DJ
'ŠTNJ 'NPJ 'LJ〔 〕 ¹³ B'DJN 'NST
RWHH' W'MJ TMLL WLJ T'MR J' MRJ
WJ' 〔HJ 〕 ¹⁴ 'DJNTJ J'MJ' 'NH LK
BQDJŠ' RB' BMLK Š〔 〕 ¹⁵ DJ MNK
ZR' DN WMNK HRJWN' DN WMNK
NSBT PRJ〔 〕 ¹⁶ WL' MN KWL ZR

II ¹ 全くその時はわたしは受胎が警護の天使達によるものであり、…が聖天使達によるものであり、墮落の天使達…と心に考えた。
² それでわたしの心はこの童子の ために転倒した。

³ その時わたしレメクは 狼狽し、わたしの妻バテノスのもとに来て〔言った〕、⁴ ……至高者、至大の主、すべての世界の王に誓って……⁵ 天の子ら……、あなたがすべてを真実を以てわたしに 告げるまで…… ⁶〔真実を以て〕うそ偽りなくこれをわたしに告げなさい…… ⁷ すべての世界の王に誓って、あなたが真実を以てうそ偽りなくわたしに語るまで…
…⁸ その時わたしの妻バテノスは力をこめてわたしに語り、…… ⁹ そして言った、おゝ兄上よ、おゝわが君よ、……わたしとの悦楽を思い出して下さい。¹⁰ 暫く……そしてわたしの精神はその*器の中に……、そしてわたしは真実を以てすべてを……¹¹ ……わたしの心はその時甚だしく転倒した。¹² わたしの妻バテノスはわたしの顔色が変わったのを見ると、…
¹³ その時彼女は怒りを抑えて、わたしに語りわたしに言った、おゝわが君よ、おゝ〔兄上よ〕…… ¹⁴ わたしとの悦楽を……わたしは大聖者、……の王にかけて……あなたに誓います、¹⁵ この種はあなたによるものであり、こ

WL' MN KWL 'JRJN WL' MN KWL
 BNJ ŠM(JN] 17 'NPJK KDN' 'LJK
 ŠN' WŠHT WRWHK KDN 'LJB' [
] 18 BQWŠT MMLL' 'MK
 19 B'DJN 'NH LMK RTT 'L MTWŠLH
 'BJ WKWL' LH [] 20 'BWHJ WKWL'
 MNH BJSB' JND' BDJ HW' RHJM WR(
] 21 'DBH PLJG WLH MHWJN
 KWL' WKDJ ŠM' MTWŠL(H 22]
 LHNWK 'BWHJ LMND' MNH KWL'
 BQWŠT' [] 23 R'WTH W'ZL *L'RK
 MT *LPRWJN WTMN 'ŠKHH L []
 24 W'MR LHNWK 'BWHJ J' 'BJ WJ' MRJ
 DJ 'NH LK [25] L[] W'MR LK
 DBL TRGZ 'LJ DJ LHK' 'TJT L []
 26 DHJL L'LJK [

XIX 7] W'MRT 'NTH HW' 8 [
] LM'LM [] M 'D K'N L' *DBQTH
 LTWR' QDJŠ' WNGDT 9 L[] WHWJT
 'ZL LDRWM' [] 'D DJ DBQT LHBRWN
 [] 'TB(N)J'T HBRWN WJTBT 10 [
 ŠN)JN WHW' KPN' B'R'' D' KWL'
 WŠM'T DJ T(BW)T' [] BMSRJN

の受胎はあなたによるものであり、そして…
 の実のりはあなたによるものであることを。
 16 そしていかなる異国人によるのでもなく、
 いかなる警護の天使によるのでもなく、いかなる
 なる天の子によるのでもなく、……〔何が〕
 17 あなたの顔をこのように変え、そして傷つ
 けました〔か〕、あなたの精神はこのような
 なさけない…… 18 真実を以て〔わたしは〕あ
 なたに語っています。19 その時わたしレメク
 は父メトセラのもとに走って、すべてを彼に
 …… 20 彼の父……そして彼はすべてを彼から
 確実に知るであろう、何となれば彼は愛され
 ていて……からである。…… 21 彼の分は割り
 当てられ、彼にすべてが告げられる。メトセ
 ラは……を聞いたときに、…… 22…彼の父エ
 ノクからすべてを真実に知るために、彼のも
 とに…… 23 彼の意志を……それで彼は……パ
 ルワイムに行った、そしてそこに彼を発見し
 た……24〔彼は〕彼の父エノクに〔言った〕、
 おゝ父よ、おゝわが主よ、あなたにわたしは
 …… 25 ……わたしはあなたに言いますが、わ
 たしに対して怒らないで下さい、何となれば
 わたしはこゝに……に來たからです。…… 26
 ……恐れなさい……

XIX 7 ……そしてわたしは言った、あなた
 は……である。8 ……まだわたしは 聖なる山
 に達していなかった。それでわたしは出発し
 て 9 ……そしてわたしは南へ行きつゞけた。
 ……遂にわたしはヘブロンに着いた。……ヘ
 ブロンは〔*その時〕建てられたのである。
 そしてわたしは 10〔*二〕年間…… 9 住んだ。

WNGDT ¹¹ L〔 〕 L'R' MSRJN〔 〕
 WHW'〔DBQ〕T LKRMWN' NHR' HD
 MN ¹² R'SJ NHR' 'M〔 〕 'L'〔 〕
 K'N 'NHN'〔 〕 'R'N'〔WH〕LPT ŠB'T
 R'SJ NHR' DN DJ ¹³〔 〕 K'N HLPN'
 'R'N' W'LN' L'R' BNJ HM L'R' MSRJN

¹⁴ WHLMT 'NH 'BRM HLM BLJLH
 M'LN' L'R' MSRJN WHZJT BHLMJ
 〔WH〕 'RZ HD WTMR' ¹⁵ HD'〔 〕
 WB〔NJ〕 'NWS 'TW WB'WN LMQS
 WLM'QR L〔 '〕RZ' WLMŠBWQ TMRT'
 BLHWDWHH ¹⁶ W'KLJ'T TMRT'
 W'MRT 'L TQWSW L〔 '〕RZ' 'RJ TRJP'
 MN ŠD'〔 〕 'WSBJQ 'RZ' BTLL TMRT'
¹⁷ WL'〔 〕 W'TJRT BLJLJ'
 MN ŠNTJ W'MRT LŠRJ 'NTTJ HLM
¹⁸ HLMT MN〔 W〕DHL〔MN〕 HLM'
 DN W'MRT LJ 'ŠT'J LJ HLMK W'ND'
 WŠRJ T L'ŠT'J' LH HLMH DN ¹⁹〔 〕
 HLM'〔 〕 DJ JB'WN LMQTLNJ WLKJ
 LMŠBQ〔KP〕WM D' KWL TBWT' ²⁰〔

〕 BKWL〔 〕 DJ〔 〕 'LJ DJ
 'HJ HW' W'HJ BTLJKJ WTPLT NPŠJ
 BDJLJKJ ²¹〔 〕 L'〔 〕 JTNJ
 MNJ WLMQTLNJ WBKT ŠRJ 'L MLJ
 BLJLJ' DN ²²〔 〕 'PD'J〔 〕
 WŠRJ LMPNH LŠ'N ²³〔 〕JR'BNPŠH
 DJ L' JHZNH KWL〔 〕 WLBTR

¹⁰ ところがこの地全体に飢饉があった。わたしはエジプトに……よき穀物があると聞いた。それでわたしは ¹¹……エジプトの地へ¹⁰出発した。¹²……川の わかれ ¹¹の一つであるケラモン川に着いた。…… ¹²今やわたし達はわたし達の地……そしてわたしは……この川の七つのわかれを越えた。¹³ 今やわたし達はわたし達の地を越えて、ハムの子の地に、即ちエジプトの地に入った。

¹⁴ わたしアブラムはわたし達がエジプトの地に入った夜に夢を見た。わたしはわたしの夢に見たが、見よ、一本の香柏と ¹⁵一本の ¹⁴なつめやしの木が ¹⁵……すると人々が来て、香柏を切って根こそぎにし、なつめやしの木ひとつだけを残しておこうと欲した。¹⁶ するとなつめやしの木は叫んで言った、香柏を切ってはなりません、何となれば……を倒す者は呪われるからです。それで香柏はなつめやしの木のおかげで残されて、¹⁷……なかった。

そしてわたしはその夜眠りから覚めて、わたしの妻サライに言った、夢を ¹⁸わたしは…見た。わたしはこの夢が心配である。すると彼女はわたしに言った。わたしが知るようにわたしにあなたの夢を語って下さい。それでわたしは彼女にこの夢を語りはじめた。¹⁹…夢…彼等がわたしを殺し、あなたを残しておこうと欲する…それゆえにすべてのよき物 ²⁰……彼はわたしの兄ですと……そうすればわたしはあなたのおかげで生き、わたしの命はあなたのために助かるだろう。²¹……わたし

HMS ŠNJ' 'LN 24 [] TLT' GBRJN
 MN RBRBJ MŠRJ(N [] DJ PR'(W)
 S'(N) 'L ML[] W'L 'NTTJ WHWW'
 JHBJN 25 [] TBT' WHKMT'
 WQWŠT' WQRJT QWDMJHWN L[]
 MLJ [] 'K 26 [] BKPN' DJ '(
)TH WL' [] W'TWN LMQM 'D
 DJ [] ŠH LHH [] MLJ 27 []
) BM'KL ŠGJ WBMŠTH [] HMR'
 [28

XX 2 [] KMH [] WŠPJR
 *LH ŠLM 'NPJH' WKM' 3 [] D)QJQ
 LH Š'R R'JŠH KM' J'JN LHWN LH
 'JNJH' WM' RGG HW' LH 'NPH' WKWL
 NŠ 4 'NPJH' [] KM' J' LH HDJH
 WKM' ŠPJR LH KWL LBNH' DR'JH'
 M' ŠPJR N WJDJH' KM' 5 KLJLN W[]
 KWL MHZH JDJH' KM' J'JN KPJH WM'
 'RJKN WQTJNN KWL 'ŠB'T JDJH'
 RGLJH' 6 KM' ŠPJR N WKM' ŠLM' LHN
 LH ŠQJH' WKL BTWLN WKL'N DJ
 J'LN LGNWN L' JŠPRN MNH' W'L KWL
 7 NŠJN ŠWPR ŠPRH W'LJ' ŠPRH' L'L'
 MN KWLHN W'M KWL ŠPR' DN HKM'
 ŠGJ' 'MH' WDL JDJH' 8 J' WKDJ ŠM'
 MLK' MLJ HRQNWŠ WMLJ TRJN
 HBRWHJDJPMHD TLTHWN MMLLJN
 ŠGJ RHMH WŠLH 9 L'WB' DBRH'
 WHZH' W'TMH 'L KWL ŠPRH' WNSBH'

から……そしてわたしを殺すために……する
 とサライはこの夜わたしの言葉に泣いた。 22
 ……傷つけた……そしてサライはゾアンの方
 へ 23……彼女の命に……誰も彼女を見ないよ
 うに……そしてこの五年間の後 24パロ・ゾア
 ンが……の上とわたしの妻の上とに……エジ
 プトの高官達のうち三人の者が……そして…
 与え続けた。 25 ……善と智恵と真実……それ
 でわたしは彼等の前に……呼んだ…… 26 ……
 ……飢饉に……それで彼等は……立つために
 来た…… 27……多くの食物を以て……酒宴に
 於て……葡萄酒……

XX 2 ……いかに……そして彼女の顔だち
 は美しいことでしょう。そしていかに 3 ……
 彼女の頭の 髪は毛は こまやかなことでは
 よう。いかに彼女の目はうるわしいことでは
 よう。また彼女の鼻は何と好ましいことでは
 よう。そして 4 彼女の顔の 3 すべての輝きは 4
 ……いかに彼女の胸はうるわしいことでは
 よう。そしていかに彼女のすべての白さが美
 しいことでしょう。彼女の腕は何と美しいこと
 でしょう。また彼女の手はいかに 5 完成され
 ていることでしょう。……彼女の手のすべて
 の様子は……いかに彼女の掌はうるわしいこ
 とでしょう。また彼女の手のすべての指は何
 と長く細いことでしょう。彼女の足は 6 いかに
 美しいことでしょう。そしていかに彼女の
 すねは完全なことでしょう。婚礼の部屋には
 いるいかなる処女達また花嫁達も彼女より美
 しくはありません。そして 7 彼女の美しさは
 女達の 6 いずれにもまさっています。 7 彼女

LH L'NT' WB'' LMQTLNJ W'MRT ŚRJ
¹⁰ LMLK' D'HJ HW' KDJ HWJT
 MTGR 'L DJLH' WŚBJQT 'NH
 'BRM BDJLH' WL' QṬJLT WBKJT
 'NH ¹¹ 'BRM BKJ TQJP 'NH WLWT
 BR 'HJ 'MJ BLJLJ' KDJ DBJRT MNJ
 ŚRJ B'WNS

¹² BLJLJ' DN ŚLJT WB'JT W'THNNT
 W'MRT B'T'SB' WDM'J NHTN BRJK
 'NTH 'L 'LJWN MRJ LKWL ¹³ 'LMJM
 DJ 'NTH MRH WŚLJT 'LKWL' WBKWL
 MLKJ 'R' 'NTH ŚLJT LM'BD
 BKWLHWN DJN WK'N ¹⁴ QBLTK MRJ
 'L PR'W S'N MLK MSRJN DJ DBRT
 'NTTJ MNJ BTWQP 'BD LJ DJN MNH
 W'HJZJ JDK RBT' ¹⁵ BH WBKWL BJTH
 W'L JŚLT BLJLJ' DN LTṀJ' 'NTTJ
 MNJ WJND'WK MRJ DJ 'NTH MRH
 LKWL MLKJ ¹⁶ 'R' WBKJT WHṢJT
 BLJLJ' DN ŚLḤ LH 'L 'LJWN RWḤ

の美しさは彼女達すべてより上に高くにあります。そしてこのすべての美しさとともに彼女には非常な賢さがそなわっています。そして彼女の手の先は⁸ うるわしくあります。王はヒルカノスの言葉と彼の二人の仲間の言葉を、彼等三人が口を揃えて語るのを聞くと、彼女を非常にほしがって、⁹ 早速⁸ 人を遣わして⁹ 彼女をつれて来させた。彼は彼女を見てその美しさのすべてに驚嘆し、彼女を妻として娶った。そして彼はわたしを殺そうと欲した。それでサライは、¹⁰ 彼女のゆえにわたしが有利になるように、王に⁹ 言った、¹⁰ 彼はわたしの兄です。それでわたしアブラムは彼女のゆえに殺されずに残された。わたし¹¹ アブラムは、わたしもわたしと一緒にいた弟の子ロトも、その夜わたしからサライが無理強いに連れ去られたときに、はげしく¹⁰ 泣いた。

¹² この夜わたしは祈り、求め、願い、そして涙を流しながら悲しみのうちに言った、いと高き神、すべての¹³ 世界¹²の主よ、あなたが崇められるように。¹³ 何となればあなたは主にして、あらゆるものの支配者であり、あなたは地のすべての王を支配して彼等すべてに裁きを行ない給うからであります。今、¹⁴ 主よ、わたしはあなたにエジプトの王パロ・ゾアンを訴えます。何となればわたしの妻が力づくでわたしから連れ去られたからであります。わたしのために彼に裁きを行ない、¹⁵ 彼と彼のすべての家に下る¹⁴ あなたの大きいなる手を示して下さい。¹⁵ この夜彼をしてわた

MKDŠ LMKTŠH WLKWL 'NŠ BJTH
 RWH¹⁷ B'JS' WHW'T KTS' LH WLKWL
 'NŠ BJTH WL' JKL LMQRB BH' W'P
 L' JD'H' WHW' 'MH¹⁸ TRTJN ŠNJN
 WLSWP TRTJN ŠNJN TQPW WGBRW
 'LWH' MKTŠJ' WNGDJ' W'L KWL 'NŠ
 BJTH WŠLH¹⁹ QR' LKWL [HKJM]
 MSRJN WLKWL 'ŠPJ' 'M KWL 'SJ
 MSRJN HN JKWLWN L'SJWTH MN
 MKTŠ' DN WL'NŠ²⁰ BJTH WL' JKLW
 KWL 'SJ' W'ŠPJ' WKWL HKJMJ' LMQM
 L'SJWTH 'RJ HW' RWH' KTS'
 LKWLHWN²¹ W'RQW B'DJN 'TH
 'LJ HRQNWŠ WB' MNJ DJ 'TH W'ŠLH
 'L²² MLK' W'SMWK JDJ 'LWHJ WJHH
 'RJ BHLM [] W'MR LH LWT L'
 JKWL 'BRM DDJ LŠLJ' 'L²³ MLK'
 WŚRJ 'NTTH 'MH WK'N 'ZL 'MR
 LMLK' WJŠLH 'NTTH MNH LB' LH'
 WJŠLH 'LWHJ WJHH

しの妻を汚すことを得しめないで下さい。そ
 して主よ、彼等をしてあなたが¹⁶地の¹⁵すべ
 ての主であることを知らしめて下さい。¹⁶ そ
 してわたしは泣いて悲しんだ。この夜いと高
 き神は彼を打つために彼に疫病の風を、また
 彼の一族すべてに¹⁷悪しき風を¹⁶送り給うた。
¹⁷ それは彼と その一族すべてを打ちつゞけ
 た。それで彼は彼女に近づくことができなかつた。
 そして彼は¹⁸二年間¹⁷彼女とともにいたが、
 彼女を知らなかった。¹⁸ 二年の終りに
 疫病と災厄は彼の上に、そして彼の一族すべ
 ての上に強くなり激しくなった。それで彼は
 人を遣わして、¹⁹ エジプトのすべての賢人と
 すべての魔法使をエジプトのすべての医師と
 ともに呼んだ、若しかして彼等がこの疫病か
 ら彼を、また²⁰彼の家の¹⁹人々を医やすこと
 ができるかも知れないからであった。²⁰ しか
 しいずれの医師も魔法使もそしていずれの賢
 人も彼の治療に立つことができなかった。何
 となれば風は彼等すべてを打ち、²¹ それで彼
 等は逃げたからである。

その時ヒルカノスはわたしのもとに来て、
 わたしが行って²²王の²¹ために祈り²²手を彼
 の上に置く²¹ようにわたしに求めた。²² そう
 すれば彼は生きるであろう、何となれば夢で
 ……それでロトは彼に言った、わたしの伯父
 アブラムは²³その妻サライが彼とともにいる
 のに王の²²ために祈ることはできない。²³ さ
 あ行って、彼の妻をその夫のもとに送るかえ
 すように王に言いなさい。そうすれば彼は彼
 のために祈るだろう、そして彼は生きるだろ

²⁴ WKDJ ŠM' HRQNWŠ MLJ LWT 'ZL
 'MR LMLK' KWL MKTŠJ' WNGDJ'
²⁵ 'LN DJ MTKTŠ WMTNGD MRJ MLK'
 BDJL ŠRJ 'NTT 'BRM JTJBW NH LŠRJ
 L'BRM B' LH ²⁶ WJTWK MNKH MKTŠ'
 DN WRWH *ŠHLNP' WQR' LJ 'LW
 W'MR LJ M' 'BDTH LJ BDJL [ŠR]J
 WT'MR ²⁷ LJ DJ 'HTJ HJ' WHJ' HW'T
 'NTTK WNSBTH' LJ L'NTH H'
 'NTTK D'MJ 'ZL W'DJ LK MN ²⁸ KWL
 MDJNT MŠRJN WK'N ŠLJ 'LJ W'L
 BJTJ *WTTG'R MNNH RWH' D' B'JŠT'
 WŠLJT 'L [] DN' ²⁹ *HJ WSMKT
 JDJ 'L [R']ŠH W'TPLJ MNH MKTŠ'
 W'TG'RT [MNH RWH'] B'JŠT' WHJ
 WQM [HW]D' ³⁰ LJ MLK' B[] MNT[]
 WJM' LJ MLK' BMWMH DJ L' []
 H'J[] WH' [] ³¹ L[] H WJHB LH
 MLK[' M]HB[' Š]GJ' WLBWŠ ŠGJ
 DJ BWŠ W'RGW'N [] ³² QWDMJH'
 W'P LHGR W' [] LMH LJ WMNJ
 'MJ 'NWŠ DJ JNPQ []

³³ W'ZLT 'NH 'BRM BNKSJN ŠGJ'JN
 LHD' W'P BKSP WDHB WSLQT MN
 [MŠRJ]N [WLWT] ³⁴ BR 'HJ 'MJ W'P
 LWT QNH LH NKSJN ŠGJ'JN WNSB

う。

²⁴ ヒルカノスはロトの言葉を聞くと、行っ
 て王に言った、²⁵ わが主なる王様が打たれ苦
 しんでおられるこれらの²⁴疫病と災厄はすべ
 て、²⁵ アブラムの妻サライのゆえであります。
 サライを彼女の夫アブラムにお返しになっ
 て下さい。²⁶ そうすればこの疫病と腫物の風と
 はあなたから去り行くでしょう。それで彼は
 わたしを呼びよせて、わたしに言った、あな
 たはサライのゆえにわたしに何をしたか、あ
 なたは²⁷彼女があなたの妻であるのに、‘わた
 しの妹です’とわたしに²⁶ 言った。²⁷ それで
 わたしは彼女を妻として娶ったのである。見
 よ、わたしのもとにいるあなたの妻だ。行け、
 そして²⁸エジプトの国のすべて²⁷から立ち去
 れ。²⁸そして今わたしとわたしの家のために、
 わたし達からこの悪しき風がとがめられるよ
 うに祈れ。それでわたしはこの……のために
 祈って、²⁹わたしの手を彼の頭の上に置いた。
 すると疫病は彼から除かれ、悪しき風は彼か
 らとがめられ、そして彼は生きた。それで³⁰
 王は²⁹立って³⁰わたしに……²⁹告げた。³⁰ そ
 して王は……誓いを以てわたしに誓った。³¹
 ……そして王は彼に多くの……また細布と紫
 の多くの衣服を与えた。……³²彼女の前に…
 またハガルに……そして……連れ出す人をわ
 たしとともに任命した。……

³³ それでわたしアブラムは非常に多くの家
 畜を連れ、また銀と金を携えて出発し、エジ
 プトから上って行った。³⁴ 甥の³³ロトも³⁴わ
 たしと一緒にあった。ロトもまた多くの財産

LH 'NTH MN ()

XXI ¹ {B}KL 'TR MŠRJ'TJ 'D DJ
DBQT LBJT 'L L'TR' DJ BNJT TMN
BH MDBH' WBNJTH TNJ'NJ
² {W}'QRBT 'LWHJ 'LW'N WMNHH
L'L 'LJWN WQRJT TMN BŠM MRH
'LMJ' WHLLT LŠM 'LH' WBRKT
³ {'}LH' W'WDJT TMN QWDM 'LH' 'L
KWL NKSJ' WTBT' DJ JHB LJ WDJ
'BD 'MJ TB WDJ 'TJBNJ ⁴ L'R' 'D'
BŠLM

⁵ BTR JWM' DN PRŠ LWT MN LW'TJ
MN 'WBD R'WTN' W'ZL WJTB LH
BBQ'T JRDN' WKWL NKSWHJ
⁶ 'MH W'P 'NH 'WSPT LH 'L DJLH ŠGJ
WHW' R'H NKSWHJ WDBQ 'D SWDM
*WJBN LH BSWDM BJ ⁷ WJTB BH
W'NH HWJT JTB BTWR' DJ BJT 'L
WBŠ 'LJ DJ PRŠ LWT BR 'HJ MN
LW'TJ

⁸ W'THZJ LJ 'LH' BHJZJ' DJ LJLJ'
W'MR LJ SLQ LK LRMT HŠWR DJ 'L
ŠM'L ⁹ BJT'L 'TR DJ 'NTH JTB WŠQWL
'JN'K WHZJ LMDNH' WLM'RB'
WLDRWM' WLSPWN' WHZJ KWL ¹⁰ R'
D' DJ 'NH JHB LK WLZR'K LKWL
'LMJM WŠLQT LMHTW KN LRMT
HŠWR WHZJT 'R' MN ¹¹ RMT' D' MN
NHR MSRJN 'D LBNN WŠNJR WMN
JM' RB' 'D HWRN WKWL 'R' GBL 'D

を得、また……から妻を娶った。……XXI ¹
わたしが宿営したすべての場所に……遂にわ
たしかってそこに祭壇を築いた場所ベテル
に着いて、それを再び築いた。² わたしはそ
の上に燔祭と素祭をいと高き神に供えた。そ
してそこでもろもろの世界の主の名を呼び、
神の名をほめて³ 神を² 崇め、³ そしてわた
しに賜わったすべての財産とよき物、わたし
に恵みを施し給うたこと、またわたしを⁴ 無
事にこの地に³ 帰らせ給うたことを、そこで
神の前に感謝した。

⁵ この日の後ロトはわたし達の牧人等の行
ないゆえにわたしの もとから 別れて行っ
て、ヨルダンの谷間に住んだ。彼のすべての
家畜は⁶ 彼と一緒にであったが、わたしもまた
彼のものを大いに増してやった。彼は自分の
家畜を飼いつゝソドムにまで達し、ソドムに
家を建てゝ⁷ そこに住んだ。そしてわたしは
ベテルの山に住んでいた。甥のロトがわたし
の もとから離れたことはわたしにとって悲し
みであった。

⁸ ところで神は夜の幻のうちにわたしに現
れて言い給うた、⁹ あなたの住んでいる所ベ
テルの⁸ 左の方にあるラマテハズルに上り、
⁹ 目をあげて東、西、南、北を見なさい。¹⁰
わたしがあなたとあなたの子孫に永久に与え
るこの地の⁹ すべてを見なさい。¹⁰ それでわ
たしはその翌日ラマテハズルに 上って、¹¹ エ
ジプトの川からレバノンとセニルまで、大海
からハウランまで、カデシに至るゲバルの全
地、および¹² ハウランとセニルの東の大¹¹ 砂

QDŠ WKWL MDBR' ¹²RB' DJ MDNH
 HWRN WŚNJR 'D PWRT W'MR LJ
 LZR'K 'NTN KWL 'R" D' WJRTWNH
 LKWL 'LMJM ¹³W'ŚGH ZR'K K'PR
 'R" DJ L' JŠKH KWL BR 'NWS
 LMMNJH W'P ZR'K L' JTMNH QWM
 HLK W'ZR ¹⁴WHZJ KMN 'RKH' WKMN
 PTJH' 'RJ LK WLZR'K 'NTNNH 'HRJK
 'D KWL 'LMJ'

¹⁵W'ZT 'NH 'BRM LMSHR WLMHZH
 'R" WŠRJT LMSHR MN GJHWN NHR'
 W'TJT LJD JM' 'D DJ ¹⁶DBQT LTWR
 TWR' WSHRT MN L(JD) JM' RB' DN
 DJ MLH' W'ZLT LJD TWR TWR'
 LMDNH' LPWTJ 'R" ¹⁷'D DJ DBQT
 LPWRT NHR' WSHRT LJD PWRT 'D
 DJ DBQT LJM' ŠMWQ' LMDNH'
 WHWJT 'TH LJ LJD ¹⁸JM' ŠMWQ' 'D
 DJ DBQT LLŠN JM SWP DJ NPQ MN
 JM' ŠMWQ' WSHRT LDRWM' 'D DJ
 DBQT GHWN ¹⁹NHR' WTB T W'TJT
 LJ LBJTJ BŠLM W'ŠKH T KWL 'NŠJ
 ŠLM W'ZLT WJTBT B'LWNJ MMRH
 DJ BHRWN ²⁰*KLMDNH SPWN
 HBRWN WBNJT TMN MDBH W'SQT
 'LWHJ 'L' WMNH' L'L 'LJWN W'KLT
 W'ŠTJT TMN ²¹'NH WKWL 'NŠ BJTJ

漠のすべてを¹²エウフラテスまで、¹¹この高
 所¹⁰から地を見た。¹²すると彼はわたしに言
 い給うた、あなたの子孫にわたしはこのすべ
 ての地を与えよう、彼等は永久にそれを継ぐ
 であろう。¹³そしてわたしはあなたの子孫を
 いかなる人も数えることのできない地のちり
 のように多くしよう、あなたの子孫も数えき
 れないであろう。立って歩きなさい。行って、
¹⁴その長さがどれほどか、またその幅がどれ
 ほどかを見なさい。何となればわたしはあな
 たとあなたの子孫にあなた以後永久にそれを
 与えるからである。

¹⁵それでわたしアブラムはその地を見て回
 るために出発した。わたしはギホン川から回
 りはじめて海辺に至り、遂に¹⁶タウロス山に
 着いた。そしてこの塩の大海のほとりから回
 って、その地を横にタウロス山に沿って東へ
 行き、¹⁷遂にエウフラテス川に着いた。それ
 からわたしはエウフラテスに沿って回り、遂
 に東の方エリトラ海に着いた。さらにわたし
 は¹⁸エリトラ海¹⁷に沿って行きつゞけ、¹⁸エ
 リトラ海から出ている葦の海の入江に着い
 た。それからわたしは南へ回り、遂にギホン
¹⁹川¹⁸に着いた。¹⁹そしてわたしは引き返し
 て無事に帰宅し、人々が皆無事であるのを見
 出した。それからわたしは行って、ヘブロン
 に、²⁰即ちヘブロンの北東にある¹⁹マムレの
 櫛の木に住んだ。²⁰わたしはそこに祭壇を築
 き、その上に燔祭と素祭をいと高き神に供え
 た。²¹そしてわたしとわたしの家の人すべて

WŠLHT QRJT LMMRH WL'RNM
WL'ŠKWL TLTT 'HJ' *'MWR" RHMJ
W'KLW KHD' ²² 'MJ WŠTJW 'MJ

²³ QDMT JWMJ' 'LN 'TH KDRL'WMR
MLK 'JLM 'MRPL MLK BBL 'RJWK
MLK *KPTWK TD'L MLK GWJM DJ
²⁴ HW' BJN NHRJN W'BDW QRB 'M
BR' MLK SWDM W'M BRŠ' MLK
*'WMRM W'M ŠN'B MLK 'DM' ²⁵ W'M
ŠMJ'BD MLK ŠBWJN W'M MLK BL'
KWL 'LN 'ZDMNW KHD' LQRB L'MQ'
DJ SDJ' WTQP MLK ²⁶ 'JLM WMLKJ'
DJ 'MH LMLK SWDM WLKWL
HBRWHJ WŠWJW 'LJHWN *MR' TRTJ
'SRH ŠNJN HWW' ²⁷ JHBJN MDTHWN
LMLK 'JLM WBSNT TLT 'SRH MRDW
BH WBSNT 'RB' 'SRH DBR MLK 'JLM
LKWL ²⁸ HBRWHJ WSLQW 'RH' DJ
MDBR' WHWW' MHJN WBZJN MN
PWRT NHR' WMHW LRP'J' DJ B'ŠTR'
²⁹ DQRNJN WLZWMZMJ' DJ B'MN
WL'JMJ' (DJ B)ŠWH HQRJW
WLHWRJ' DJ BTWRJ GBL 'D DBQW
L'JL ³⁰ PRN DJ BMDBR' WTBW []LJN
[] BHŠSN TMR

³¹ WNPQ MLK SWDM L'WR'HWN
WMLK ['WMRM WM)LK 'DM'
WMLK ŠBW'JN WMLK BL' []

は²⁰食べ、かつ飲んだ。²¹ またわたしはわた
しの友達のアモリ人三兄弟、マムレとアルナ
ムとエシコルを呼びにやった。それで彼等は
²² わたしと一緒に²¹ 食べ、²² わたしとともに
飲んだ。

²³ この頃よりさきに、エラムの王ケダラオ
メル、バビロンの王アムラベル、カパトクの
王アリオク及び²⁴ 川の間にいる²³ ゴイムの王
テダルが来て、²⁴ ソドムの王ベラ、ゴモラム
の王ビルシャ、アデマの王シナブ、²⁵ ゼボイ
ムの王セメバド及びベラの王と²⁴ 戦いを交え
た。²⁵ これらは皆戦いのために同盟してシデ
ムの谷へ向かった。²⁶ エラムの²⁵ 王²⁶ 及び彼
とともにいた王達はソドムの王とそのすべて
の同盟者を²⁵ 抑えて、²⁶ 彼等に貢物を課し、
十二年間彼等は²⁷ エラムの王に貢物を納めて
いたが、十三年目に彼に背いたのである。そ
れで十四年目にエラムの王は²⁸ 彼の同盟者²⁷
すべてを率いて²⁸ 荒野の道を上った。そして
彼等はユウフラテス川からの途中襲い掠めつ
づけた。すなわち彼等は²⁹ カルナイムの²⁸ ア
シタロテにいたレパイム人、²⁹ アンモンにい
たズムジム人、シャベ・ハキリヨトにいたエ
ミ人及びゲバルの山地にいたホリ人を撃っ
て、遂に³⁰ 荒野にある²⁹ エル・³⁰ パラン²⁹ に
達した。³⁰ 彼等は引き返して……ハザゾン・
タマルに……

³¹ それでソドムの王と〔ゴモラムの〕王と
アDMAの王とセボイムの王とベラの王は彼等
に向って出て、³² 〔エラムの王〕ケダラオメ

QRB' ³²B'MQ' D(J SDJ') LQWBLJ
 KDRL'〔WMR MLK 'JLM WMLKJ') DJ
 'MH W'TBR MLK SWDWM W'RQ
 WMLK 'WMRM ³³NPL B'GJ'JN [

] MLK 'JLM KWL NKSJ' DJ
 SWDM WDJ ³⁴[] WŠBW
 LWT BR 'HWJ

XXII ¹DJ 'BRM DJ HW' JTB BSWDM
 KHD' 'MHWN WKWL NKSWHJ W'TH
 HD MN R'H ²'NH DJ JHB 'BRM LLWT
 DJ PLT MN ŠBJ' 'L 'BRM W'BRM
 B'DJN HW' ³JTB BHBWRWN WHWJH
 DJ ŠBJ LWT BR 'HWHJ WKWL
 NKSWHJ WL' QTJL WDJ ⁴NGDW
 MLKJ' 'RH' HLT' RBT' LMDJTWN
 WŠBJN WBZJN WMHJN WQTLJN
 W'ZLJN ⁵LMDJNT DRMSQ WBK' 'BRM
 'L LWT BR 'HWHJ W'THLM 'BRM WQM
⁶WBHR MN 'BDWHJ GBRJN BHJRJN
 LQRB TLT M' WTMNJ'T 'SR W'RN
⁷W'ŠKWL WMMRH NGDW 'MH WHW'
 RDP BTRHWN 'D DBQ LDN W'ŠKH
 'NWN ⁸SRJN BBQ'T DN WRMH
 'LJHWH BLJLJ' MN 'RB' RWHJHWN
 WHWW' QTL ⁹BHWN BLJLJ' WTBR
 'NWN WHW' RDP LHWN WKWLHWN
 HWW' 'RQJN MN QWDMWHJ ¹⁰'D
 DBQW LHLBWN DJ ŠJM' 'L ŠM'L
 DRMSQ W'SL MNHWN KWL DJ ŠBW'
¹¹WKWL DJ BZW WKWL TBTHWN

ル及び彼とともにいた〔王達〕に対して、シ
 デムの谷に於て ³¹戦いを…… ³²ところがソド
 ムの王は敗れて逃げ、ゴモラムの王は ³³水た
 めに落ちた。……エラムの王はソドムと〔³⁴ゴ
 モラム〕 ³³のすべての財産を……³⁴そして彼
 等は **XXII** ¹彼等と一緒にソドムに住んでい
 たアブラムの ³⁴甥のロトを、 ¹彼のすべての
 財産とともに ³⁴捕えた。 ²アブラムがロトに
 与えた群れの ¹牧人の一人で、 ²捕虜から逃
 れた者が、アブラムのもとに ¹来て、 ²当時
 アブラムは ³ヘブロンに住んで ²いたのであ
 るが、 ³彼に告げた。すなわち彼の甥のロト
 は殺されはしなかったが、そのすべての財産
 とともに捕えられたことを、そして ⁴王達は
 大溪谷の道を彼等の国へと進み、捕え、掠め、
 撃ち、殺しつつ、 ⁵ダマスコの国へ ⁴向った
³ことを。 ⁵それでアブラムは彼の甥ロトの
 ゆえに泣いた。そしてアブラムは勇を奮って
 立ち、 ⁶彼のしもべ達の中から戦いのために
 訓練された者三百十八人を選んだ。アルナム
 と ⁷エシコルとマムレは彼等とともに行っ
 た。彼は彼等のあとを追って遂にダンに達し
 た。そして彼等が ⁸ダンの谷間に屯している
 のを見つけたので、 ⁸四方から彼等を夜襲し、
⁹その夜彼等を ⁸殺しつゞけて ⁹これを打ち
 敗った。彼は彼等を追い、彼等は皆彼の前か
 ら逃げつゞけて、 ¹⁰遂にダマスコの左に位置
 するヘルボンに達した。彼は彼等が捕えたす
 べての者と、 ¹¹彼等が掠めたすべてのものと、
 彼等のすべてのよき物とを ¹⁰彼等から救い出

W'P LLWT BR 'HWHJ PS' WKWL
 NKSWHJ WKWL ¹²ŠBJT' DJ ŠB'W
 'TJB WSM' MLK SWDM DJ 'TJB 'BRM
 KWL ŠBJT' ¹³WKWL BZT' WSLQ
 L'WR'H W'TH LŠLM HJ' JRWŠLM
 W'BRM ŠR' B'MQ ¹⁴ŠW' WHW' 'MQ
 MLK' BQ'T BJT KRM' WMLKJSDQ
 MLK' DŠLM 'NPQ ¹⁵M'KL WMŠTH
 L'BRM WLKWL 'NŠ' DJ 'MH WHW'
 HW' KHN L'L 'LJWN WBRK
¹⁶L'BRM W'MR BRJK 'BRM L'L 'LJWN
 MRH ŠMJ' W'R' WBRJK 'L 'LJWN ¹⁷DJ
 SGR ŠN'JK BJDK WJHB LH M'ŠR MN
 KWL NKSJ' DJ MLK 'JLM WHBRWHJ

¹⁸B'DJN QRB MLK' DJ SWDM W'MR
 L'BRM MRJ'BRM ¹⁹HBLJNPŠ' DJ 'JTJ
 LJ DJ ŠBJ' 'MK DJ 'SLTH MN MLK
 'JLM WNKSJ' ²⁰KWLHWN ŠBJQJN LK

'DJN 'MR 'BRM LMLK SWDM
 MRJM 'NH ²¹JDJ JWM' DN L'L
 'LJWN MRH ŠMJ' W'R' *N MN
 HWT' 'D 'RQ' DMS'N ²²'N 'SB MN
 KWL DJ 'JTJ LK DLM' THWH
 'MR DMN NKSJ KWL 'TRH DJ
²³'BRM BR' MN DJ 'KLW KBR

した。¹¹また朔のロトをも救い、彼のすべての財産と、¹²彼等が捕えた ¹³すべての捕虜とを取り返した。ソドムの王はアブラムがすべての捕虜と ¹³すべての掠奪物を ¹²取り返したことを聞いたので、¹³ 彼に会うために上り、サレム即ちエルサレムに來た。アブラムは ¹⁴シャベの ¹³谷に、即ちベテハケレムの平野にある王の谷 ¹³に宿營した。¹⁴すると サレムの王メルキゼデクは ¹⁵アブラムおよび彼とともにいたすべての人のために食物と飲物を ¹⁴出した。¹⁵ 彼はいと高き神の祭司であった。彼は ¹⁶アブラムを ¹⁵祝福して ¹⁶言った、天地の主なるいと高き神によってアブラムが祝福されんことを。¹⁷ あなたの敵をあなたの手に渡し給うた ¹⁶いと高き神が崇められんことを。¹⁷ それで彼はエラムの王とその同盟者達のすべての財産の十分の一を彼に与えた。

¹⁸ その時ソドムの王が近づいてアブラムに言った、わが主アブラムよ、¹⁹ わたしに所属する人、すなわちあなたがエラムの王から救い出してあなたとともにいる捕虜をわたしに下さい。財産は ²⁰ことごとくあなたに残されます。

その時アブラムはソドムの王に言った、わたしは ²¹今日天地の主なるいと高き神に手を ²⁰上げて誓います、²¹ 糸一本から靴の紐一本に至るまで、²² わたしはあなたに属するいかなるものも取りません。²³ アブラムの富はすべてわたしの財産からであるとあなたが言わないためにです。但しわたしとともにいる若

‘WLJMJ DJ ‘MJ WBR’ MN HWLQ
 TLTT GBRJ’ DJ ²⁴‘ZLW ‘MJ ‘NWN
 ŠLJTJN BHWLQHWN LMNTN LK
 W’TJB ‘BRM KWL NKSJ’ WKWL
²⁵ŠBJT’ WJHB LMLK SWDM WKWL
 ŠBJ’ DJ HW’T ‘MH MN ‘R’ D’ ŠBQ
²⁶WŠLH KWLHWN

²⁷BTR PTGMJ’ ‘LN ‘THZJW ‘LH’
 L’BRM BHZJ’ W’MR LH H’ ‘ŠR ŠNJN
²⁸ŠLM’ MN JWM DJ NPQTH MN HRN
 TRTJN *‘BRTH TNH WŠB’ BMSRJN
 WHD’ ²⁹MN DJ TBT MN MSRJN WK’N
 BQR WMNJ KWL DJ ‘JTJ LK WHZJ
 KMN KPLJN ŠGJW MN ³⁰KWL DJ
 NPQW ‘MK BJWM MPQK MN HRN
 WK’N ‘L TDHL ‘NH ‘MK W’HJH LK
³¹S’D WTQP W’NH MGN ‘LJK
 W’SPRK LK LTQJP BR’ MNK
 ‘TRK WNKSJK ³²JŠGWN LHD’ W’MR
 ‘BRM MRJ ‘LH’ ŠGJ LJ ‘TR
 WNKSJN WLM’ LJ ³³KWL (‘)LH W’NH
 KDJ ‘MWT ‘RTLJ ‘HK DJ L’ BNJN
 WHD MN BNJ BJTJ JRTNNJ ³⁴‘L’ZR
 BR ()LD (J)RTNJ W’MR LH
 L’ JRTNK DN LHN DJ JPWQ

者達がすでに食べたものを除き、また ²⁴わたしとともにいった ²³三人の分を除きます。 ²⁴彼等はあなたに与えるために彼等の分に権利をもつ者です。そしてアブラムはすべての財産とすべての ²⁵捕虜を ²⁴返して、 ²⁵ソドムの王に与えた。また彼とともにいた捕虜をすべてこの地から放ち、 ²⁶彼等すべてを去らせた。

²⁷これらの事後、神は幻の中でアブラムに現れて、彼に言い給うた、見よ、 ²⁸あなたがハランを出た日から満²⁷十年が²⁸経過した。すなわちあなたは二年間²⁷と²⁸で、七年間エジプトで、過ごした、そして ²⁹あなたがエジプトから帰ってから ²⁸一年になる。 ²⁹さあ、あなたの持てるすべてのものを調べて数えなさい。そして ³⁰あなたがハランを出た日にあなたと一緒に出たすべてのもの ²⁹より幾層倍増えたかを見なさい。 ³⁰さあ、恐れるな、わたしはあなたとともにいる。わたしはあなたのために ³¹支えと ³⁰なろう。 ³¹強くあれ、わたしはあなたのための盾である。わたしはあなたより外の強き者からあなたを保護しよう。あなたの富とあなたの財産とは ³²甚だ多くなるであろう。それでアブラムは言った、わたしの主なる神よ、わたしの富と財産とは増えました。しかし ³³わたしは裸で死に、子なくして去り行くのに、これらすべては ³²わたしにとって何のためでしょう。わたしの家の子の一人がわたしのあとを継ぐでしょう。 ³⁴…の子エリエゼルがわたしのあとを継ぐでしょう。すると彼に言い給うた、この者があな

たのあとを継ぐのではない, ……出る者が…

…

註

ii, 9. 再帰的与格。

ii, 10. 原語 NDNH' <NDN' は‘鞆, 器’, すなわち ‘肉体’。ダニエル書 7:15, 'TKRJ_T RW_{HJ} 'NH DN_J'L BGW NDNH (わたしダニエルは‘器’の中にあるわたしの霊が悩んだ)。

ii, 23. L'RK MT? 文字不明瞭, 意味も不詳。PRWJN はヘブライ語の PRWJM (parwajim, 歴代志下 3:6) に相当するか。

xix, 8. この-H は人称接尾語の冗語的用法 (§ 31参照)。

xix, 9, 10. ヨベル書13:10により補う。

xx, 2. 再帰的与格の一種である。

xx, 26. 意味不明。動詞ŠHL_P (過ぎ去る) と関係づけることは困難である。文脈上 RW_H は構成位相としか考えられないから, ŠHLN_P' はそれに支配される名詞とする他はない。今は ŠHN' (腫物, 申命記 28:27等参照) の意味に解釈しておく。ともかく, N か P のいずれかは誤記であろう。

xx, 28. こういう言い方はよくある。詩篇 106:9, マルコによる福音書 4:39 参照。

xx, 29. 意味不明。HJ' (schnell!, auf!) に等しいか。

xxi, 6. ヘブライ語。転換の W による継起構文。

xxi, 20. KL- は疑問。前置詞 B- が期待されるところである。

xxi, 21. 'MWR" ('āmōrā'ē) は複数限定位相。

xxi, 23. カバドキヤのことであろうといわれている。

xxi, 24. 'MWRH (ゴモラ) に同じ。他の固有名詞にも独特の形または綴りが見られる。

xxi, 26. 明らかに MD' と読むべきである。次の行には MDTHWN とある。

xxii, 21. 'N ('in=ヘブライ語 'im) は誓い又は誓いのための動作を表わす語句に従うとき否定の意味を持つ。この部分に相当する創世記 14:23 のオンケロス・タルグムは次の通りである, 'M MJHW_T' W'D 'RQT MSN' W'M 'JSB MKL DLK WL' T'MR 'N' 'TRJT JT 'BRM。これでは全く原典を翻訳機にかけたような逐語訳であって面白味がない。それに比べるとこの文章はかなり流暢, 間違である。

xxii, 28. 'BDTH と読むべきであろう。'BD はこの場合自動詞で‘時を過ごす’の意味である。

(§ 28への追加) 同時代に行なわれていたナバテヤ語には JHB の未完了の用例もある。
WL'N DWŠR' KL MN DJ JQBR BKPR' DNH 'JR MN DJ 'L' KTJB 'W JZBN 'W
JZBN 'W JMŠKN 'W JWGR 'W JHB 'W J'N' (上に記された以外の者をこの墓に葬り,
或は〔これを〕売買し, 或は担保にし, 或は賃貸し, 或は与え, 或は等閑にする者をすべて
ドウシヤラ神が呪われるように), Cantineau, Le Nabatéen, II, p. 28, 29等参照。